決算を認定!

定例会の主な内容

第 10 回 (9 月) 定例会は、9 月 13 日に開会し、10 月 16 日までの 34 日間にわたり開催しました。この議会では、平成 28 年度沼津市一般会計歳入歳出決算の認定等 29 件、議員提出議案 1 件及び請願 1 件を審議しました。

ここでは、平成 28 年度の一般会計、特別会計及び企業会計の審査、歳入・歳出決算額等の主な内容をお知らせします。

特別会計決算

会　　計	歳　　入	歳　　出	差　引　額
国民健康保険事業	268 億 4,034 万円	258 億 7,166 万円	9 億 6,868 万円
土地取得事業	5 億 1,590 万円	5 億 1,590 万円	0 円
介護保険事業	151 億 9,760 万円	148 億 6,409 万円	3 億 3,351 万円
簡易水道事業	376 万円	271 万円	106 万円
後期高齢者医療事業	21 億 8,530 万円	21 億 7,961 万円	569 万円

企業会計決算

会　　計		収　　入	支　　出	差　引　額
病院事業	収益的収支	110 億 7,559 万円	112 億 5,644 万円	△ 1 億 8,085 万円
	資本的収支	10 億 1,600 万円	15 億　687 万円	△ 4 億 9,087 万円
水道事業	収益的収支	31 億 6,971 万円	25 億　413 万円	6 億 6,558 万円
	資本的収支	8 億 7,418 万円	20 億 5,381 万円	△ 11 億 7,963 万円
下水道事業	収益的収支	50 億 3,339 万円	48 億 3,355 万円	1 億 9,983 万円
	資本的収支	20 億 1,294 万円	36 億 9,423 万円	△ 16 億 8,130 万円

◆収益的収支：事業活動に伴って生じる収入と支出　◆資本的収支：建物や機器などの資産の購入・売却による収入と支出
◆一般会計から病院事業会計へ 20 億 5,000 万円、水道事業会計へ 2,277 万 8,000 円、下水道事業会計へ 24 億 5,000 万円繰り入れています。なお、企業会計決算額は、消費税及び地方消費税を含みます。

特別会計企業会計予算決算委員会での主な質疑

問 特定健康診査受診率向上のための取り組みは。

答 特定健康診査をがん検診と同時に実施したことや、平日だけでなく、土曜日、日曜日にも集団健診を実施したほか、各地区を回る巡回健診を行った。また、若い世代の受診率向上のため、40 歳になる人を対象に、期日を指定し、特定健診と同時に運動体験や食生活のアドバイスを行う「はじめて健診」を引き続き実施した。さらに、新たな取り組みとして、特定健診を受診した人の継続受診を促すため、41 歳の人を対象に「はじめて健診」同様の内容の総合健診を実施した。

問 土地取得事業における土地売払収入の内容は。

答 沼津駅周辺総合整備事業促進用地 2 カ所、合計 1,136 平方メートルを、5 億 898 万 4,000 円で一般会計に売却したものである。

問 要介護等認定者をふやさないための新たな取り組みは。

答 平成 28 年度、新たに高齢者の積極的な社会参加を通じた介護予防を推進するため、体操や運動を普及する人材を養成する、健康体操サポーター養成講座及び市内の介護保険施設等でサポート活動を行う人材を育成する、介護予防サポーター養成講座を計 8 回実施し、延べ 215 人の参加があった。

問 病院事業における平成 28 年度に実施した経営改善に対する取り組みは。

答 沼津市立病院あり方検討委員会から出た意見をもとに、患者数の増を目的として、病院長による開業医の訪問を行ったほか、新たに、広報誌「ぬまピタル」の発行や健康まつりを開催するなど、情報発信の強化に取り組んだ。また、診療報酬のマイナス改定に対する影響の緩和や看護師不足に対応するための病床数の削減を行った。さらに、患者満足度の向上を目的として、患者や付き添い者の食事スペースを確保するため、院内のレストランや売店を見直し、院内にコンビニエンスストアを導入するなど、できるところから着手した。

問 下水道事業において未処理欠損金が依然として生じていることに対する認識は。

答 平成28年度は、純利益1億6,729万3,999円により、未処理欠損金を削減できたが、人口減少や節水機器の普及などにより、下水道使用料の大幅な増収が見込めない中、下水道維持管理費の増加等により、今後さらに厳しい経営状況になると考えている。そのため、経費節減はもとより、下水道の普及率及び水洗化率を向上させ、自主財源確保による純利益の計上を図り、未処理欠損金の早期解消に努めていかなければならないと認識している。